

2021年度 防災講演会の報告

一寸木 肇

1 講演会までの経緯

2021年12月18日（土）13:30～16:00に、小田原市役所7階大会議室で防災講演会を開催した。

今回は、2023年に発生から100周年を迎える関東大震災に焦点を当て、「関東大震災をふりかえり、これからの防災に活かす」をテーマにし、ジオパーク活動においても防災の視点が重要な部分であることから、箱根ジオパーク推進協議会と共催した。

折からのコロナ禍で、何度か計画・実施の延期を余儀なくされ、ようやくこの日に開催することができた。

当日の講師は、井上公夫氏（財 砂防フロンティア整備推進機構 専門研究員）と内田昭光氏（小田原市根府川 離れの宿「星ヶ山」オーナー）の2名にお願いし、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、スタッフを含め約80名が参加した。

2 講演会当日について

井上公夫氏は、『関東大震災における小田原市根府川地区の被害状況に学ぶ』の講演で、はじめに災害小説（自然災害などを題材とした小説）アンケート記入のお願いや災害に関する書籍、「いさぼうネットワーク」の紹介があった。

次に豊富な資料を使って、全国の自然災害の歴史や記録を紹介しながら、関東大震災時の神奈川県西部の被害状況や地形の変化それらの記録と現況を丁寧に報告していただき、最近注目を浴びた秦野市震生湖の話題にも触れられた。土砂災害で1000人以上の死者を出したのは、関東地震以外にはないと述べられた。

内田昭光氏は、『関東大震災を乗り越えて』の講演で、父一正氏が震災後に記録した『人生八十年の歩み』の中から、当時の地域の様子や震災時の心得を話された。

死者は村内で289名、駅舎や列車が山津波で流され131名が犠牲になったとされ、両方を合わせると犠牲者は420名に及んだこと、「本震が起きてから5分間勝負。それが生死を分けることもある。」と、父が話していたことも語られ、今後の防災・減災対策に役立つと感じた。

コロナ禍での実施だったが、関東大震災100周年を前に、時宜を得た有意義な講演会となった。



井上公夫氏による講演



内田昭光氏による講演